



◀ そのほかの取材記事はこちらから

市内のイベント情報ははこちらから▶

三上香帆 赤こんりポーター



安土城の「ルーツ」に迫る！考古博物館の魅力

私たちのまちのシンボル、安土城。その誕生の舞台裏をご存じでしょうか。現在、県立安土城考古博物館では、安土城築城 450 年を記念して春季特別展「安土山築城前夜」が開催されています。独創的な城というイメージが強い安土城ですが、近畿、東海、北陸から集まった先人たちの知恵を、信長がこの安土の地で一つの「集大成」へと完成させたことが分かってきています。

今回は展示品の数も非常に多く、各地から集められた貴重な資料が一堂に会する様子は、まさに圧巻の見応えです。また、常設展示にある精巧な復元模型や、当時の暮らしを伝える出土品の数々も、眺めているだけで歴史の息吹が伝わってきます。

広々とした館内でゆっくりと地元の歩みを振り返る時間は、心豊かなひとときになるはず。ぜひ、安土の新たな魅力を探しにお出かけください。

松村美沙枝 赤こんりポーター



神事×マルシェのコラボ 沙沙貴杜遊

「沙沙貴杜遊」は沙沙貴神社（安土町常楽寺）で不定期に開催されるマルシェ。四季の彩り豊かな神社で人との交流を愉しめます。今回は沙沙貴まつりと同日の開催。お祭りのスケジュールに合わせ初日は松明奉火の時間帯に、そして2日目は神輿が練り歩く日中にマルシェのにぎわいで華を添えます。マルシェには地域の洋菓子屋さんやいちご屋さん、アクセサリーやものづくり体験などのワークショップがあり、お祭りの合い間に老若男女がゆるりと楽しめる「ごほうび」のような場所でした。

山田恵美 赤こんりポーター



日韓の食と文化と芸能が交差 朝鮮人街道フェスティバル

4月24日・25日に市内朝鮮人街道を舞台に歴史スポットを巡るキーワードラリー、日韓の伝統芸能交流ステージ、マルシェやパレードが開催されました。韓国の伝統衣装のチマ・チョゴリの着用できるワークショップでは国際理解を深める取り組みとして、近江兄弟社高校インターアクトクラブの学生らがボランティアとして参加。「異文化ボランティアははじめてで、地域や色んな世代の方との関わりが楽しかった。こんな関わりを増やしていけたら」と話していました。日牟禮八幡宮の能舞台で行われた日韓伝統芸能の交流ステージではフィナーレを江州音頭が飾り、観客も演者も一体となって盛り上がりました。

向坂奈穂美 赤こんりポーター



「すべて自分たちで」高校生カフェがオープン！

高校生の居場所“まほろば”で1日限定カフェがオープンすると知り、「高校生だけで運営するってすごい！」とワクワクしながら伺ってきました。

「自分たちで運営したい！」という熱い想いから始まったこの挑戦。カレーやホットサンドなどの提供するメニューは、試行錯誤しながら完成させたそうです。

当日は、夫婦や家族連れでにぎわう中、席への案内から注文、調理、料理提供、お会計まで、すべてを自分たちの手でやり遂げる高校生たちの真剣な眼差しと、心から楽しむ笑顔がとても印象的でした。そして、こんなに頼もしい若者たちがいるということを感じました。

5月6日



勝負決する神事「足伏走馬」

賀茂神社（加茂町）で古式にのっとった競馬神事「足伏走馬」が行われ、武官束帯に身をつつんだ騎手が勢の観客が見守る中、人馬一体となって疾走しました。

この神事は、勝った馬が近江の国の代表として京都の葵祭での競馬神事に出演していたといわれる歴史ある神事です。地元関係者らが古式の衣装を身にまとい町内を練り歩く「渡御」が行われた後、「七頭の馬、七番の神事」ともいわれる7頭の馬が2頭ずつ7回走るトーナメント方式で神事が執り行われました。太鼓の音を合図に、騎手が同神社の直線400mの馬場を駆け抜けると、会場からは盛大な歓声と拍手が送られました。神事後は乗馬体験があり、家族連れらは憩いのひと時を過ごしました。

5月9日



船に乗って沖島フェスへ！

沖島のなぎさ公園で島内初となる音楽フェスティバルが開催され、多くの来場者でにぎわいました。

このイベントは、元沖島小学校校長の中島文男さんが沖島の魅力を広めようと企画したもので、会場では沖島小学校太鼓クラブ、八中太鼓、八幡東・八幡西中学校吹奏楽部、県内外のブラスバンドやジャズバンドなど12グループが出演し、迫力ある演奏を披露しました。また、併設されたマルシェではワカサギの天ぷらや、ブラックパスのコロケなど地域ならではの食も販売され、訪れた人たちは沖島の自然や文化を感じながら、ゆっくりと音楽と交流を楽しんでいました。

5月4日



伝統の「篠田の花火」 今年のテーマは安土城と左義長

「近江八幡の火まつり」の一つで国選択無形民俗文化財に指定されている篠田の花火が篠田神社（上田町）で行われました。この祭りは、杉板をつなぎ合わせた立板に美しい絵が浮かび上がる和火と、境内入り口に取り付けられた色鮮やかな「ランス」とよばれる洋火が見どころ。今年の和火は安土城築城450年の節目にあたることから安土城が描かれ、洋火は11月に開催される「あづち信長まつり」で里帰りする左義長のダシがデザインされました。

当日は、ドンと大きな号発の音を合図に、ナイアガラや洋火のほか、綱火（ロケット花火）により点火されたくると激しく回転する舞火が境内を明るく染めました。最後は静寂の中、煙の中から藤紫色の安土城が浮かび上がり、観客はその幻想的な光をじっと見つめていました。

令和8年度の赤こんりポーター決定！メンバーを紹介します♪
家族で参加できるイベントなど、「行ってみたい」のきっかけになればうれしいです。
向坂 奈穂美さん (安土町西老蘇)
市の公式キャラクター「赤こん君」を推しています！
松村 美沙枝さん (船木町)
取材を通してまちの魅力をたくさんお伝えしたいです。
山田 恵美さん (西本郷町)
移住して気づいた魅力を調査してレポートします。
三上 香帆さん (野田町)